

みちしるべ NO. 4

学校教育目標「自分から行動できる子・すすんで学ぶ子・たすけ合う子・きたえる子」



学びあい 支えあい 高めあい 笑顔あふれる学校
優しさと厳しさと温かさで
子どもを鍛え、育む地域の学校を目指して



優しさと思いやりを育てる

校長 川島 正晴

出会いと別れの年度末・年度初めですが、今年度は離任式やPTA総会が無事に開催されました。4月は健康観察とマスク着用、手洗い・うがいをおこないつつ、可能な限り通常に近い学習と生活ができました。全校遠足も楽しく実施できました。しかし、感染状況は依然として厳しく、今後も一層対策の徹底を図り、豊かな教育活動ができるよう努めて参ります。



一方、新年度・新学期が始まり、緊張関係の中でがんばってきた子ども達に、連休明けの頃から様々な課題があらわれてきます。学習や生活、友人関係などが重層的に絡み合い、5月と6月は疲れや課題が表出し、心も不安定になりがちです。そんな子どもたちを、学校でも家庭・地域でも優しく温かく包んでいきたいものです。こんな文章があります。



文明の所産は、数え切れないほど多くの便利さを私たちに与えてくれた。たとえば、自動ドアがそうである。両手にいっぱい手荷物を下げていても、その前に立ちさえすれば自動的に開き、しかも自分で閉める必要のないものだ。＜中略＞しかしながら、他方で、自動ドアが人間から奪ったものがあることを忘れてはなるまい。

「自分の後ろに続く人を思いやる心」である。この世の中は自分だけで成り立っているのではないという、至極簡単明瞭な事実、自分以外に他人がいて、その人もまた自分と同じく優しさを求めて生きているという事実、＜中略＞思いやりというものは、強いものが弱いものに、持てるものが、持たざるものに、つまり上から下に施すものではない。それは「人」という字がいみじくも表しているように、不完全なもの同士が、支えあう人間本来の姿なのである。この大切なことを、私たちは忙しい日常生活の中で忘れてしまっている。（渡辺和子『目に見えないけれど大切なもの』PHP文庫、2016、pp.59-61、より抜粋）



一人一人が夢や目標に向かって努力をすることは、言うほどやさしい事ではないのかもしれませんが。思うようにいかない自分にいらだち、葛藤し、苦しんでいる子もいます。友達とうまくいかずに悩んでいる子もいます。学習に困っている子もいます。だから権小では、

机をつけて学びあい、支えあうのです。友だちの力を借りて、共に課題を解決するのです。自分の周りの資源を使い、課題解決に挑みます。その実践の中で、子どもたちは友だちを思いやり、友だちの優しさを感じ取っていくのです。学びの実践が優しさと思いやりの心を育てています。

私たち教職員は、保護者や地域の方々とともに、子どもを優しさで包み、支え、同時に、学力向上でも高みに向かって認め、励まし、鍛えていきます。地域の力で一層のご支援をお願いします。

